

東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

研究課題（和文）：荻生徂徠の詩文と荻生家資料

研究課題（英文）：Ogyū Sorai's Literary Works and Ogyū Collection

申請者名・所属先：高山 大毅（総合文化研究科地域文化研究専攻）

海外招聘者名：なし

1. 研究の目的

荻生徂徠が文学史上に残した重要な足跡は、李攀龍・王世貞（いわゆる明代古文辞派）を模範とした詩文を流行させたことである。当時の俳諧や和歌の動向も、漢詩文における古文辞派の流行との関係から理解しないと分からないことが多い。本研究の目的は、荻生家旧蔵資料に含まれる文学関係の稿本類（徂徠自筆本『五言絶句百首解』『滄溟七絶三百首解』など）を整理・検討することで、荻生徂徠及びその学派の詩文について新たな知見を示すことにあった。

2. 研究開始当初の背景

2021年12月に荻生徂徠の後裔である荻生茂樹氏・庄子妙子氏から、家伝の資料153点が駒場図書館に寄贈され、また国文・漢文学部会の教員を中心に寄贈資料に関連する資料を購入した。寄贈・購入に当たって、申請者は目録の作成に当たり、従来知られていなかった重要な稿本などが荻生家旧蔵資料に含まれていることが明らかになった。研究開始当初は、防虫・防カビのための処置を資料に施すなど、保存・整理のための基礎的な作業を行っている段階であった。

3. 研究の方法

まずは、各資料の書誌調査を行い、詳細な目録を作成した（貴重資料については調査が終わり、現在、板本・軸類の目録作成を続けている）。その上で、本プロジェクトの研究費を用い、重要資料の撮影を行った。撮影データは今後、本学のデジタルアーカイブにて公開する予定である。自筆本『五言絶句百首解』『滄溟七絶三百首解』は、出版された『絶句解』『絶句解拾遺』の稿本に当たる。そこで、自筆本と板本との比較を行った。また、稿本「官刻六諭衍義叙」・『徂徠物先生護園遺稿』（『徂徠集』の稿本の一つ）の本文・書入を詳細に検討した。

4. 研究成果

『徂徠集』の稿本類を整理する過程で、徂徠学派の文章の表現技法についての理解が深まり、それについて韓国漢文学会で発表した。板本にはなく、自筆本『五言絶句百首解』『滄溟七絶三百首解』にしか見られない詩・注の存在が明らかになった（これについてはHMCオープンセミナー「荻生徂徠『絶句解』の謎を解くー荻生家史料の可能性」で報告した）。また、『官刻六諭衍義』出版についての先行研究に基づき、稿本「官刻六諭衍義叙」を分析することで、徂徠が当該の文章を執筆する過程で経験した苦勞をより



具体的に明らかにできた（これについては HMC オープンセミナー「荻生徂徠「官刻六諭衍義叙」をめぐって」で報告した）。自筆本『五言絶句百首解』『滄溟七絶三百首解』及び稿本「官刻六諭衍義叙」に関する新知見は論文の形で発表することも考えている。

5. 主な発表論文等

〔図書〕

〔雑誌論文〕

〔学会発表〕

高山大毅「日本古文辭派研：荻生徂徠の散文と奇想」（2022 年韓国漢文學會第 13 回全國學術大會、2022 年 10 月 28 日）

〔その他〕